

みんなで変わろう～普通学級の特別支援教育～

1. 学校学級の様子

全校児童約160名の学校で、1学年1学級、そして特別支援学級1、合計7学級の学校です。職員は、校長・教頭・事務・養護が各1名、学級担任7名、専科・少人数各1、8時間講師1の県費職員に加えて、志摩市独自のサポーター3名、校務員1の18名。一番人数の多い学年で34名、少ない学年は19名で、特別支援学級には2名が在籍し、支援学級籍はないけれど、支援が必要として、サポーターの付いた児童が3名います。

ここで報告するのは、4年生34名の実践です。この学年は、支援学級籍の児童が1名いることもあり、1年生のときから常に複数で担当してきました。入学式の様子からも、担任だけでは（1人だけでは）、学習活動を進めていくことが困難であるということがうかがえたからです。授業は、学級担任に加えて、支援学級の担任であったり、専科やサポーターであったり、教室の中に常に大人が複数いる状態で行って来ました。

全体の学習活動を進めて行く者（T1とよびます）と個々の児童を支援する者（T2）と役割分担をしていました。T2は、支援が必要と思われる子どものそばによりそい、指示を出したり、質問に答えたりしてきました。また、作業や活動に戸惑っていると、アドバイスを与えたりもしました。

そうして、2年生になると、授業中にたち歩いたり、飛び出したりはしなくなりました。しかし、授業時間に遅れてくる、休み時間のトラブルを引きずり授業に入れず、学習に関係のない私語が多い、課題に取り掛かるのが遅いなど、課題もまだ多く残っていました。そのことが全校的に見られたので、全校体制で学習規律の見直しをしていくことにしました。

まず、チャイム席を一番に考えました。子どもたちの様子を見てみると、チャイムで動いていることが分かりました。遊んでいてチャイムが鳴り始めると、遊びをやめようとするのですが、やめるのはチャイムが鳴り終わったときで、それから片づけをし、手を洗ったりうがいをしたりしていました。そこで、3分前に予鈴を鳴らし、本鈴の時には席についているように学習の約束を変えました。大人のほうも予鈴で動き出し、本鈴の時には「始めます」の挨拶をするようにしました。そして、終わりのチャイムが鳴ったら、学習活動をやめるようにしました。延長なしです。全校でやったら、1ヶ月もしないうちに、授業の始まりを全員が揃って始められるようになりました。授業始まりと終わりの挨拶も、みんながするようにしました。ADHDと診断され、活動の切り替えが（特に遊びから学習へが）難しかったAも、授業に遅れることがほとんどなくなりました。

Aが授業に遅れなくなり、遊びからの切り替えができるようになったのは、周りの子どもたちが変わったからではないかと思えました。Aは、注意されるとよく「俺だけじゃない。〇〇もやっとな。」と言いましたが、その言い訳が通用しなくなったのです。それだけではなく、みんながすることに合わせようとする様子も見られました。

そこで、子どもたちへの支援だと思ってやっていたことを見直してみました。例えば、一斉の指示があったときに、聞いていなかった子どもに、サポーターがそっと教えていたことをやめることにしました。子どもの中に、「後から聞けばいい。」と、サポーターを頼って、一斉の指示を聞こうとしない様子があることに気づいたからです。では、どうすれば聞かせることができるのか、子どもの前に立つ大人にも工夫すべきことがあると考えました。そして、全校での統一した学習規律（別紙 学習規律チェックシート）で、自分の授業を見直すことにしました。

2. 実践内容と子どもの様子や変容

この学年は、Aも含めて、支援の必要な子どもが多かったので（座席表参照）、学校全体の学習規律に加えて、次のようなことをしていきました。

（1）見通しを持たせる

- ・ 1週間の予定を学級通信で知らせておく。
- ・ 朝、予定黒板を基にして、1日の予定を確認する。時間割の変更や休憩時間にいつもと違うこと（例 業間に縄跳び練習がある）があるときには、黄色で書く。
- ・ 1授業時間の流れを黒板の端に書く。（大体3つのことをする。）
- ・ 授業の前に、教室の約束を確認する。（話は黙って最後まで聞く・発言は手を上げてする・授業に必要なものは出さない）
- ・ 始めますの挨拶から、終わりますまでは、授業の約束を守ることが当たり前だということを徹底する。

（2）ほめる

- ・ 約束がきちんと守れている子をほめる。
- ・ 発表の仕方、音読、姿勢、丁寧な字など、いいところを見つけてほめる。

（1）と（2）の2つのことを徹底していっただけで、子どもたちの様子が変わってきました。見通しをもてたことで、「これが終わったら何をするの。」という質問が減り、そのときにすることに集中していきました。また、ほめることで具体的にどうすればよいのかが分かったようで、同じようにする子どもが増えてきました。

（3）指示・説明を分かりやすいものにする

- ・ ひらがなで書く言葉で話す。
- ・ 一つのことを一つの文で話す。活動が二つの時は、二つの文にする。
- ・ 前置きをして話す。（大事なことを言います・3つ言います）
- ・ 同じことを繰り返して話さない。
- ・ 子どもを主語にした言い方をする。
- ・ 最後には質問を受ける。
- ・ 話したことを見えるようにして残す。（指示、手順など）
- ・ 黒板にはその授業の情報以外書かない。
- ・ 黒板の左端は、連絡用としておく。

(3) に気をつけて話をしていくようになると、「子どもが話を聞かない」「指示と違うことをやってくる」ということが減ってきました。同じことを繰り返し話さないこと、個別には話さないことを徹底していったら、それまで支援が必要と思われて側についていた子ども、一度で聞けるようになってきました。全体に向けて話したことは、自分にも言われていることなのだとということがわかってきました。また、聞き逃したときには、大人でなく、子どもどうして教えるようにしました。活動の手順などは、予め紙に書いて貼るようにもしました。番号もつけると、よりわかりやすかったです。一手間かかりましたが、全体にかかる時間は短縮されました。

(4) 座席の工夫

・基本は、2人が机をくっつける座り方で、支援の必要な子どもが周りからの刺激を受けられることが少ないように配慮した。

(5) 整理整頓

・机の上には必要な物だけ出させるようにして、休憩時間には、机上には何もない状態にする。

・ファイルを用意して、プリント類はすべてファイルに綴じさせる。

・はさみ、のり、コンパス、定規などは、机の中に入れさせず預かって、授業で使うときに配るようになる。

はさみやコンパスは、時には凶器にもなるので、必要なとき以外には渡さないようにしました。筆箱の中には、鉛筆5本、赤鉛筆1本、消しゴム、直定規を入れさせました。消しゴムは白のプラスチック消しゴム、定規もメモリがついているだけのもと、シンプルな物で統一しました。プリント類は、配る前に全部穴を開けて、作業が済んだらすぐに綴じられるようにしました。2年生の時には、全部同じファイル、4年生では社会科・総合は別のファイルとしました。鉛筆や消しゴムも、使わないときには筆箱の中に入れることを繰り返し指導しました。このことで、作業に集中しやすくなりましたし、机の中も整理されてきました。帰る前には、机を整頓させ、ゴミも拾うように注意しましたが、大人も必ず清掃して、朝学校へ来たときには、いつも同じ状態であるように気をつけました。

3. 伝え方の工夫～自分の気持ちを伝える～

席替えをしたときのことで、「隣の人迷惑になるから、おしゃべりしません」とか、「隣の人にちょっかいをかけません」と言っても、知らないふりをしている（ように見える）Aさんでしたが、「新しい席で、困ったことはありませんか。黒板が見えにくいことはないですか。」という問いに、ある男の子が「となりがA君で、A君がしゃべっているとき、勉強に集中できるかどうか心配です。」と、言いました。言い方として、Aがいるから困るのではなく、自分が出来るかどうか不安があるという言い方をしました。Aに、「〇〇くんは、心配していますが、どうですか。」と聞いたら、「おれ、静かにする。」と、答えました。以前、「Aがうるさくて困る。」と言われたときには、「おまえの方がうるさい。」と答えたこともあるのにです。Aのすることに対して、「私

は、こう思っています。こう感じています。」ということ伝えるのは、大事なことだと知らされました。さらに、「うれしい。」「助かった。」ということ伝えると、よい行動が強化されるのを感じました。そのときの主語は「わたし」がいいのだと思いました。

(・・・なので、わたしはうれしいです。・・・と、わたしは思います。・・・は、わたしはいやです。)

・理科の実験

今日の5・6時間目は理科でした。「みんなで使う理科室」という勉強で、理科室に行ってみました。ガスコンロと、アルコールランプと、ガスバーナーを使ってしました。わたしが一番楽しいと思ったのは、アルコールランプを使ったことです。アルコールランプにマッチで火をつけて、ふたをして火を消すというのを、一人二回しました。初めてマッチをすったので、少しこわかったです。

わたしのいけなかった所は、使わない時に、ガスライターをつけたことと、ガスバーナーを使っていて、火がついている所に、息をふいたことです。こんなことをしていなかったら、もっと楽しくできたかなと思いました。

初めて理科室を使った日の日記にこう書いてきた子がいました。Aと同じ班の子どもです。Aもやっていたけど、そんなことは書かずに、自分のことを正直に書きました。これを通信で紹介したら、Aが、「おれもやった。ごめんなさい。」と、誰に言われたわけでもないのに、謝りました。

・マラソン大会の着順カード

「マラソン大会の着順カード」

今日は授業参観で、マラソンの着順カードを作りました。まず、表を先に仕上げようと思ったので、ささっといねいに終わらせて、うらを書いてもらいました。お母さんと、・・・ちゃんと、・・・ちゃんと、田畑先生と、土居先生、・・・さんと、・・・さんと、・・・さんと、・・・さんと、・・・さんと、・・・さんに書いてもらいました。(できたので)前に出しに行ったら、Aさんが、わたしの書いたのを見て「おれ、これほしい。わざと24位とろうかな。」と、言われてとてもうれしかったです。

マラソン大会の着順カードに、メッセージを書き絵を描きました。「もらった人が嬉しくなるようなカード」をめざして、みんなで作りました。この日記も通信で紹介したら、1番にこだわるAさんが、8位のカードを受け取って、にこにこしていました。

・体育の時間

「サッカーの試合」

今日の体育サッカーの試合でした。私たちのチームは、Aくんがリーダーでした。せめるときに、Aくんが作戦を言いました。失敗したときに、「わりい」と言ったので、みんな笑ってしまいました。そのあと、ゴールを決めてくれました。試合は引き分けでした。楽しかったです。

体育の時間に、4チームに分かれて試合をしていきました。Aは、体育係なので、リーダーの一人です。リーダーが中心になって作戦を立てたり、練習をしたりすることを

前もって話しました。リーダーにも、中心になってやることと、失敗したときにせめるような言葉を言わないことを約束してありました。その最初の試合があった日の日記です。負けることが大嫌いなAでしたが、この後も友だちを攻撃する言葉を使うことなく終わりました。Aのチームでは、「ごめん」「いいよ」と声を掛け合っていました。

・ 芦浜のこと

・原子力発電所が爆発したことを知っています。自分の家に住めない人がたくさんいると、お母さんが言っていました。(原子力発電所が)近くなくて、よかったです。

・芦浜に、原子力発電所が出来なくて、よかったです。反対してくれて、よかったです。

・原子力発電所が近くにあったら、こわいです。ウミガメが卵を産むところを、僕も見たいです。

冬休みに、原子力発電所建設に反対して守られた芦浜を見学に行きました。あまりにも景色がきれいだったので、子どもたちに写真を見せました。(別紙)これと新聞記事をあわせて見せ、芦浜が自然豊かなままで残っているのは、原子力発電所建設に反対した人たちがいたことを伝えました。そのとき、Aは「漁師のおじちゃん、ありがとう。」と叫びました。子どもたちに、芦浜原発反対闘争をどう伝えるか、4年生にどこまで分かるか考えているうちに時間だけがたってしまっていました。芦浜を実際に見学して、「この浜が残されたことだけでも」と思い、本当にそれだけを伝えたのですが、Aは海上デモの写真を見て感じたことを言葉にしたのだと思います。

感想を言うときには何も言わなかったAですが、周りの子どもたちにも、Aの気持ちは伝わっていたと思います。

4. 集団作りとして

Aは、ADHDと診断され、コンサータを服用しながら学校生活を送っています。確かに、落ち着きはないし、こだわりはあるし、話は聞いていないし・・・でしたが、Aだけを見てAに対して個別に支援していた(していたつもり)ときよりも、Aに必要な配慮を学級全体に広げていったときに、Aは変わってきました。Aが、何かで注意されるときに、よく口にする言葉が、「俺だけじゃない」でした。そして、自分とよく似たことをしている子にも注意しろと催促しました。また、「俺ばかり」という言葉もよく聞きました。逆にほかの子どもたちからは、「Aは、話を聞いていない。」とか、「Aは、教えてもらっている。」と言う声も聞きました。

大人の手があるので、子どもに寄り添って(ふりをして)いたときには、なかなか変われなかったAでしたし、第二のA(大人との個別の関わりを求める子ども)も出てきました。2年生の途中から私たちの見方や方向性を変えて、「Aだけでなく、みんながルールを守って学習や学校生活を進めていく、Aに有効なことを全体に広げていく」ようにしました。

学校全体で同じように取り組めるようにしたところ、学校全体の学習中の雰囲気も変わってきました。普通学校・普通学級での特別支援教育は、個別の支援ではないのだと感じています。